

平成8年度漁業生産の担い手確保・育成事業実施状況

瀬底正武

課	課題	実施時期	実施場所	対象	協力者	経過及び成果	問題点及び今後の課題
1.	青年漁業者等確保育成事業 1) 若い漁業者確保推進会議 開催(本島地区)	10月30日	水産改良普及所	推進会議委員		<p>□最近の沿岸漁業は、資源状況や漁場環境の悪化等により生産が低迷し、漁業、漁村の活力の低下が見られる。これらの問題を地域の実情に即して解決しながら、若い意欲ある人材を確保・育成するとともに、活力ある漁村社会の形成等を図る目的で実施。</p> <p>◎第1回開催……議題</p> <p>1) 平成8年度普及事業の概要について</p> <p>2) 平成8年度若い漁業者確保推進事業実施計画</p> <p>3) 平成9年度若い漁業者確保推進事業(アンケート調査)について</p> <p>4) 平成8年度漁村女性をつらつライフ事業について</p> <p>5) 平成8年度青壮年・女性漁業者交換大会の取り組みについて</p> <p>その他</p> <p>*平成8年度漁業士会活動について</p> <p>*平成8年度漁協青壮年部巡回移動相談実施について</p> <p>◎第2回開催……議題</p> <p>1) 平成8年度漁業生産の担い手確保・育成事業実施状況について</p> <p>2) 平成9年度漁業生産の担い手確保・育成事業実施計画について</p> <p>3) 平成8年度漁業士会活動状況及び9年度計画について</p> <p>4) 平成9年度青壮年・女性交換大会及びシンポジウムの開催(計画)について</p> <p>その他</p> <p>*平成9年度漁業士・九州沖縄地区ブロック会議の開催について</p> <p>◎第1回開催……議題</p> <p>1) 魚類養殖視察研修について</p> <p>魚類養殖場完成を前提に、青年部を中心とした</p>	
	県推進会議	3月14日	同上	同上			
2)	推進会議(八重山地区)	11月26日	那覇市	推進会議委員			

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
3) 漁業士育成活用事業 (漁業士認定)	12月21日	八重山漁協	推進会議委員	市町村・漁協	生産面の技術習得、流通対策、環境保全等の勉強会が必要との認識で実施。 2) 研修報告会の開催 (那覇市・ホテルタイラ) 参加者; 青年漁業者8名、助言者5名計=13名 ◎第2回開催……議題 1) 平成9年度普及事業予算の説明 2) 交流学習会の実施について 3) 青壮年部活動について その他……シヤゴガイ、パヤオ効果調査等について □平成8年度は、青年漁業士の推薦者が出なかったため青年漁業士の養成講座は実施しなかった。 指導漁業士については、これまで、青年漁業士として活躍された新垣和信氏 (伊江漁協) 謝花善和氏 (本部漁協) 比嘉康雅氏 (八重山漁協) が、沖縄県指導漁業士として認定された。 □漁業士研修及び支部活動については、「沖縄県漁業士会」で実施。事務局は水産改良普及所支部については、宮古支部 (事務局、支庁) 八重山支部 (事務局、支庁) 北部支部 (本部駐在) 中南部支部 (事務局、本所) の4支部で、活動を推進している。	高齢化が進む中で、青年漁業士の掘りお越しが課題。 平成9年2月末現在、青年漁業士19名、指導漁業士19名、名譽指導漁業士2名、計=40名。
4) 交流学習事業 了。交流学習会	6月12日 6月13日 8月22日	八重山漁協 平良市漁協 名護浦荘	漁業者・市町村担当者・関係団体職員	漁政課・振興課 宮古、八重山支庁	□地域振興を図るため、地域における未開発の技術又は経営手段の導入等専門家を招き集まり学習を行うものである。 ◎第1回交流学習会の開催 1) 実施地区 (本島、宮古、八重山) 2) 実施課題テーマ『漁業権と漁業調整』 3) 講師; 農林水産部漁政課 主幹 金城 英子 * 漁業権に係わる問題、漁業調整との関係等質疑応答も多く、関心の高さが伺えた。講師も手こずっていたように思われた。せめて県内外の事例等の説明がほしかった。参加者延べ130名 ◎第2回交流学習会の開催 1) 実施地区 (本島) 2) テーマ『内発的産業おこし』 3) 講師; 沖縄県産物公社 専務 宮城 弘 岩	当初は、山口県兼井漁協専務を講師に予定していたが、専務の日程がつかず変更した。

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
1. 第2回青壮年・女性漁業者交換大会  ウ. 技術交流会(本島地区) ◆貝類の増養殖 (クロチョウウ貝の母貝養殖)	1月17日	水産会館	漁業者・市町村担当者・関係団体職員	漁政課・振興課 宮古・八重山支庁	*第2回青壮年・女性漁業者交換大会関連で実施。「内側から外部の変化に積極的に対応し、自ら産産を創造する主体的活動であり、いかに大量に、早めに作るか、さらには、型、色、デザイン、パッケージ、味、品質、それに安心、安定、安全に沖縄独特の文化が加わると力説した。参加者は寝ることなく、遅れがちである県内の流通、特産品加工の話しに聞き入っていた。参加者;180名 <input type="checkbox"/> 全国では、昭和29年から始まった実績発表大会が、平成7年度より青年漁業者育成確保促進事業が、新たに実施されることとなりこれに伴って、全漁連で行われていた全国漁村青壮年婦人活動実績発表大会と全国婦人水産従事者グループ活動実績発表大会が、平成7年度より発展的に統合され、全国青年・女性漁業者交流大会として開催されることとなった。都道府県においては、青年・女性漁業者交換大会を開催し、全国漁業者交流大会へ代表を派遣することとなった。 <input type="checkbox"/> 本大会は、統合されて初の大会であった。 <input type="checkbox"/> 実績発表課題及び発表者 1) わたくしと渡嘉敷島 渡嘉敷村漁協追込網グループ……藤原史明 2) ヒトエグサ養殖にとりくんで 平良市漁協多良間支部……羽地勝也 3) 青壮年婦人部活動を通して 沖縄市漁協青壮年婦人部……高江洲文子 4) 安心して漁業が営める美海をめざして 八重山漁協婦人部……徳嶺恵子 審査の結果、青壮年の部では藤田氏、女性の部では高江洲氏が、それぞれ最優秀賞に輝いた。参加者180名 <input type="checkbox"/> 貝類の増養殖(クロチョウウガイ)に関する知見を深めるため、八重山地区において視察研修を行った。琉球真珠(株)養殖部長仲野氏及び八重山漁協上原氏よりクロチョウウガイ母貝養成の概要説明を受けた。参加者、青壮年部2名、普及所1名	平成9年度は、交換大会とシンポジウムを計画。  発表者の掘りお越しと、内容の充実を図りたい。
	9月5日 ～6日	石垣市	石川市漁協	琉球真珠・八重山漁協		金武湾海域の水質環境(赤土流入が多い)からクロチョウウガイ養殖は難しいと思われた。

課 題	実施時期	実 施 場 所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問 題 点 及 び 今 後 の 課 題
◆ 観光バヤオについて	9月10日 ～11日	仲里村	糸満漁協与根支部	久米島漁協	□ 観光バヤオを運営する上で、その組織や方法はどのようになっているのか視察研修を行った。 久米島漁協参事及び青壮年部の棚原氏より観光バヤオ運営について説明を受けた。 参加者、青壮年部2名、普及所1名	観光バヤオの運営上の問題点等について、意見交換を行った。
◆ ヒトエグサ繁殖技術交流会(主に採苗漁場について)	12月11日 ～13日	北中城・恩納 本部	渡名喜村漁協 ヒトエ生産部会	佐敷中城漁協 北中城支部 恩納、本部漁協	□ 今回の交流会の主な目的は、採苗漁場の選定方法と採苗網の高さの決め方、それぞれの漁場に於ける雑藻対策等について、直接現地で意見交換を行う。 参加者、2名	当漁協では、安定した採苗技術の確立が当面の課題である。 普及所1名
◆ モズク採苗技術交流会	1月9日	本部漁協採苗施設 水改・本部駐在	伊江・伊是名・恩納 伊平屋各生産部会	栽培センター 我部指導漁業士	□ 我部指導漁業士を中心に、糸モズクのフリー糸状体・本モズクの盤状液体保存について、培地作りから増殖方法等実践指導を行う。 □ さらに、液体保存種苗による網への採苗方法について、糸モズクと本モズクの違い液体量等漁協の採苗施設で直接実地研修を行う。	今後の課題は、分譲培養の段階でいかに、コンタミネーションを起さない作業技術の確立である。
ウ、技術交流会(宮古地区) ◆ シラヒゲウニの資源管理技術交流会	8月15日 16日	今帰仁村 古宇利島	平良市漁協 城辺支部	平良市漁協 今帰仁漁協 栽培漁業センター	□ 栽培漁業センターに於いて、シラヒゲウニの種苗生産(採卵-稚ウニの定着)過程について、説明を受ける。 □ センター視察後今帰仁漁協に於いて、ウニ漁業の概要や流通体制について、説明を受けた後古宇利島に移り、ウニ部会員との交流を行い、ウニの放流や移殖、漁場管理等について意見交換を行った。	今回の交流会で感じたのは、資源管理型漁業の推進が求められている中で、漁場を管理する重要さを占手利の漁業者は十分理解し、自分達の資源を守ってゆこうという意識を感じた。宮古では、資源管理に対する意識の改革が急務である。
技術交流会(八重山地区) ◆ 漁協青壮年部北部地区視察(当地区の青壮年部活動の一環)	11月25日 ～27日	恩納・本部・羽地 各漁協	八重山漁協青壮年部	水改・本部駐在 栽培漁業センター	□ 漁協青壮年部の独自活動の一環として、北部地区の漁業視察を行った。 恩納村漁協；シャコガイ放流と関連性を持たせた、観光漁業の幹旋と隣接ホテルとの契約等についてウミブドウの陸上養殖、タカセ貝の中間育成種への放流等について意見交換を行う。 本部漁協；青年漁業者を中心に養殖生産部会が結成され平成2年より魚類養殖がスタートされた。内容は、釣り堀、移入活魚の普及、観光漁業(水上レストラン)との複合化が図られる等参考になる所が多かった。 羽地漁協；ヒオウギガイ等の養殖から、平成3年よりマダイ養殖に切り替え現在では、「塩屋マダイ」として、積極的な販売活動を展開している。当生産	恩納漁協は、ホテル側との連携が比較的スムーズに行われている所は参考にすべきである。ホテル側との共存共栄が図られつつある。 本部漁協の観光漁業(水上レストラン・マリンスポーツ等)との複合化は、八重山でも検討に値する。

議 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
エ. 生産者会議の開催 ◆モスク養殖生産者技術 交流及び情報交換会	9月5日	恩納村・白雲荘	モスク養殖生産者 市町村・関係団体等	水産振興課 県漁連・普及所 漁業振興基金	部会では、漁場汚染を避けるため、ドライベレット (配合飼料) 使用し、生餌は使用せず漁場保全に務 めている。 25日は、本部漁協に於いて、視察交流会を持ち青壮 年部との情報交換を行った。参加者、青壮年部8名、 支庁1名 <input type="checkbox"/> これまでは、県漁連・普及所の共催で開催されたが、 本年度から「沖縄県もすぐ養殖業振興協議会」の主 催で開催された。平成8年4月3日結成 <input type="checkbox"/> 当日は、離島を含む県内15市町村からモスク養殖業 に係る生産者、加工業者ら70人余が参加し意見交 換が行われた。意見交換に先立ち、3課題話題提供 された。 <input type="checkbox"/> 交換課題は次の通りであった。 1) もすぐ養殖業の振興をめざして 県漁連総務部長……………東江美佐人氏 2) 沖縄県の支援方針 県農水部水産振興課主査……………新里勝也氏 3) 浮沈式によるモスク養殖と種保存技術の改善 県水産業改良普及所専技……………瀬底正武氏 終了後懇親会があり盛会であった。 <input type="checkbox"/> 各市町村関係者ら100数名余が参加し、講演等生産 者間の意見交換が行われた。県漁連との共催で開催 <input type="checkbox"/> 開催順等次の通りであった。 1) あいさつ 県漁連会長……………照喜名朝進氏 2) 県下における魚類養殖の概要 県水産業改良普及所主任技師……………多和田真周氏 3) 講演「九州における魚類養殖の概況」 全漁連九州支所販売課長代理……………田中津義氏 4) 講演「カンパチの増養殖について」 琉球大学助教授……………立原一憲氏 5) 外国種苗に関する導入経過報告 県漁業振興基金事務局長……………知念良廣氏 6) 各地区の生産、流通販売状況報告(グループ代表) 7) 全体討論(普及所) 終了後懇親会があり盛会であった。	大宜味支部の漁場保全のための ドライベレット使用の徹底等、八 重山では増殖場完成後の大きな課 題となろう。  モスク振興協結成初の生産者会 議で準備等間に合わなかったとの ことであるが、生産現場からの報 告がほしかった。次回会議からは、 開催内容等検討する必要がある。
◆魚類養殖生産者会議	1月29日	名護市・港区民館	魚類養殖生産者 市町村・関係機関 団体等	名護市役所・漁業 振興基金・県水産 振興課等	各地区の生産者からの報告では、 種苗量産技術の確立とマダイ一辺 倒から脱皮を図るための県産魚類 の種苗生産技術確立の意見が多か った。(種苗が絶対量不足してい る。)  非常に厳しい経営を強いられて いるため、流通の改善等組織的に 取り組む必要がある。	

課 題	実施時期	実 施 場 所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問 題 点 及 び 今 後 の 課 題
5) 新規漁業者就業促進事業 ア. 少年水産教室(本島 地区) ◆定置網漁業体験学習	9月14日	石川市漁協	石川市立城前小学校 (5年生～6年生)	石川市漁協・同市 役所・水産振興課	<p>□水産に関する基礎的知識の習得と、伝統ある地域の漁業を理解させるとともに、児童生徒の健全育成を図る目的で開催する。</p> <p>□乗船学習に入る前に、漁協研修ホールにおいて、オリエンテーション等開催する。</p> <p>1) 開催にあたって 県普及所長……久員一成氏 2) 激励のあいさつ 石川市漁協長……上間秀正氏 3) 体験学習の日程・乗船心得等……普及所 4) 魚を獲る様子と、袋網の揚げ方 5) 講話『定置網漁業のあらまし』 漁協青壮年部部长……伊波盛光氏 県水産業改良普及所長……久員一成氏</p> <p>※午前10時～11時；オリエンテーション ※午前11時～午後2時；定置網体験学習 ※午後2時～3時；研修ホールにて、魚汁を囲んで反省会・午後3時すべての日程終了同ホールにて解散。</p> <p>定置網漁業は、子供達全員初めての経験・網の中で跳ねる魚を見て感動していたと、引率で参加された城前小学校の伊波久弥校長先生は、体験学習を通して地域の漁業を理解させる上で、大変意義があったと満足げであった。参加者；児童生徒、教職員、PTAら約80人。</p>	<p>定置網現場においては、漁協青壮年部・昼食準備(魚・カーニ汁)等は漁協婦人部が担当する等、心のこもった対応に感謝したい。</p> <p>PTA会長以下多数の父母の皆さんの参加もあり、事故もなく無事終わることが出来た。</p> <p>8月14日予定が、台風の接近で日程変更せざるを得なかった。今後は、台風時期を避けた日時の設定を学校側と調整する必要がある。</p>
◆シャコガイ放流体験	7月3日	大宜味村根路銘地 先	大宜味小学校児童	栽培漁業センター 大宜味小学校 PTA	<p>□ヒメジャコ放流作業は、本来、水中作業であるが、対象が小学生なので、陸上で天然石、塊状サンゴスライス板およびコンクリート板に電動ドリルで窪みを付け総幅約5mmのヒメジャコをその窪みに入れ、上から一辺が約5cmの防虫ネットピースで固定した。これを小学校地先の海岸に設置して成育状況を観察することにした。その後、サンゴ礁生態系を構成する生物群の観察とそれらの役割について観察した。</p> <p>□成果、ヒメジャコ放流、サンゴ礁生態系の観察を通して、栽培漁業の実態、漁場保全等広い視野を持った環境保全の意識の芽生えを感じた。</p> <p>参加者；児童生徒37名(全校生)PTA、教職員10名、計=47名</p>	<p>今回の実施内容は、単発的な実施ではその効果が薄い。ヒメジャコについては、放流後の経過の観察なども含めて考えるべきである。また、サンゴ礁生態系の観察も同様で、定期的な観察会を繰り返すことによって、海を守る意識を育てることができる。</p>

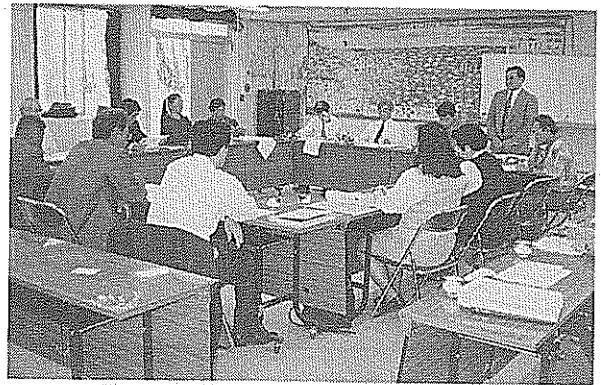
課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
1. 少年水産教室(宮古地区) ◆カツオ漁業体験学習	8月16日	伊良部町 佐良浜	佐良浜中学校 生徒全員	伊良部町漁協 佐良浜中学 伊良部町水産課	□当初は、7月31日に計画したが、台風の影響により3回日にやっとなって実施した。 教室開催当日は、天気も大変良好で男子生徒は、漁場に出てカツオ一本釣りやマグロ釣りを体験した。 女子生徒は、島内のカツオ師工場で解体作業等を体験した。教職員、PTA、町水産課、漁協、加工場の協力が大きかった。 □放流前に先立ち、市の中間育成施設内で「ナミハタについて」の学習会を開催した。 講師；水産試験場八重山支場・金城主任研究員 種苗；八重山支場で種苗生産された稚魚を市の中間育成施設で養成し、8cm~10cmに成長したナミハタ3千尾を登野城出島沖岸壁から放流した。 □子供達には「魚の赤ちゃん」を海に放すという感動もさることながら、事前の学習会での「お勉強」も楽しい思い出になったようである。帰りのバスでも子供達は大喜び。保護者からも感謝の意を表してもらった。 少年水産教室の目的である、児童生徒への啓蒙が短時間であったにしろ、肌で感じ取ったことでは、それなりの意義もあったと思われる。 参加者；児童生徒39名、父母25名、計=64名	度重なる台風の影響で、日程変更を余儀なくされた。(3回変更)夏休み以外の日時の設定が今後の課題である。  効果を期待するには、継続的に実施することであり、市町村、漁協を網羅した長期的な計画化が必要であろう。今回は、初めての試みであったが、準備から実施まで、漁協、市町村、漁業者等の積極的な協力が大きな力となった。  同教室の当初の計画は「シャコガイ放流体験学習」であったが、種苗の確保、時期等で調整がつかず「ミナハタ」に変更した。
ウ. 少年水産教室 (八重山地区) ◆ナミハタ放流体験学習	11月3日	石垣市中間育成 施設会議室 登野城出島沖岸壁	八重山の小学生や幼稚園、保育所の子供達が参加した。	水産試験場八重山支場、石垣市、漁協、漁業者等	□それぞれ、試験実施担当職員より報告資料；別紙参照	
6) 漁業技術育成定着事業 ア. 新技術定着試験 イ. 技術改良試験	8月15日 12月5日	与那城町	漁協婦人部	水試・漁協 与那城町 中部農改センター	□定置網漁獲物小魚(ミズン・グルクマー・サワラ)の加工実習を与那城町中央公民館で実施した。午前10時~午後4時まで水試の新里研究員を講師に漁協婦人部を対象にミリン干し(桜干)の加工を実習した。 加工工程は原料(ミズン・グルクマー)→内臓除去 腹開き→水洗い→水切り→調味漬け→乾燥→つや出し →(ゴマ散布)→乾燥→製品完了。中部農改センター	加工部門の専門技術者がほとんどいない。
2. 漁村女性にはつらつライフ事業 1) 未利用等加工事業 (魚類の加工) 一2回開催						

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
2) 営漁指導事業 (営漁簿の実践講習会)	10月28日	与那城町	漁協婦人部	県漁連 漁協 与那城町 中部農改センター	2名・具志川漁協3名オプザーバー参加、婦人部は18名ほど出席、時期的には適していないが加工の流れは取得したものと思われる。  □与那城町中央公民館において、県漁連木村課長補佐を講師に営漁簿のつけかた及び青色、白色申告に関する税務の仕組み等わかりやすく説明していただき、最後に質疑応答形式で講習会を実施。	
3) 交流学習事業 (視察研修)	10月22日 ～25日	長崎県	漁協婦人部	長崎県水産課 諫早水産 志岐水産 有喜漁協 勝本町漁協 郷ノ浦町漁協	□与那城町漁協婦人部3名を長崎県志岐水産業改良普及所・諫早水産業改良普及所両機関普及員の協力により、3ヶ所の漁協(志岐郷ノ浦町漁協・勝本町漁協・諫早市有喜在崎湾中央漁協)の水産加工の現状、施設等の視察を行い、あわせて婦人部の活動状況について情報収集した。特産品づくりの参考にするため加工産品を購入し持ち帰った。	





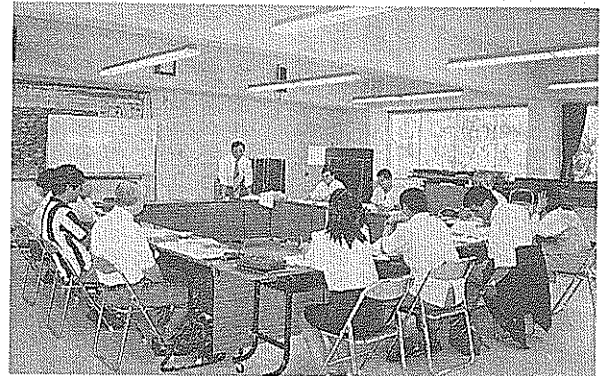
女性の部で、最優秀賞に輝いた高江洲さん



水産業改良普及所会議における委員出席  
による沖縄県若い漁業者確保推進会議



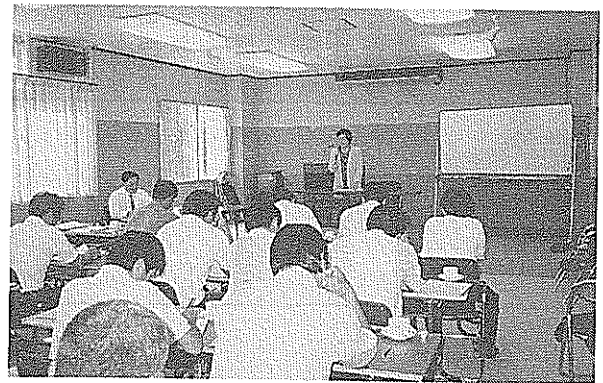
青壮年の部で、最優秀賞に輝いた藤原さん



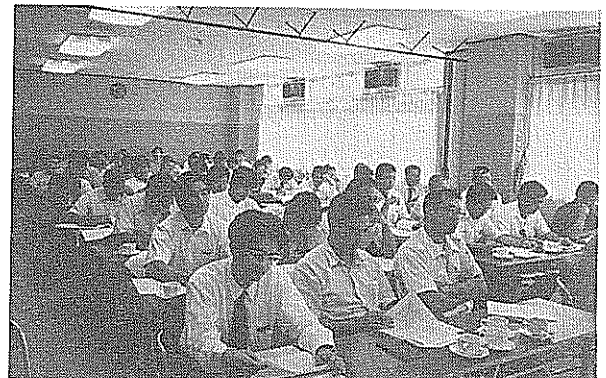
本島地区若い漁業者確保推進会議



講師：県物産公社専務宮城弘岩氏  
テーマ「内発的産業おこし」



平成8年度漁業士認定式 左から謝花比嘉、新垣指導漁業士の皆さん



交流学习会 講師：県漁政課主幹 金城笑子氏  
テーマ「漁業権と漁業調整」

## 第1回若い漁業者確保八重山地区推進会議概要

日 時：平成8年11月26日 午後4時30分

場 所：沖縄県海区漁業調整委員会室

出席者：13名（助言者5名、青年漁業者8名）

助言者 仲田 森浩漁協理事（青年部長）

名嘉 秀三漁協理事

伊良部幸吉漁協管理課長

金城 毅石垣市水産課

系数 正普及員

若い漁業者 末吉正和、比嘉幸秀、金城茂正

玉城勇三、玉城 守、島袋克彦

大嶺 猛、下地宏政

### 会議概要

#### 1. 先進地視察の結果、所感等について

##### (1) 視察概要（別紙参照）

##### (2) 所感

- ・養殖業の大変さがよく解った。
- ・スギ、ミドリイガイ等の新しい魚種について非常に興味をもった。
- ・高度な資源管理により安定した収入を上げている（恩納）のには感心した。
- ・青年部を中心にいろんな取り組み（本部）を行っているのには驚いた。
- ・自分らはまだ必要に迫られていない面がある。
- ・作る前に売り方を考えることが重要だということが解った。
- ・工夫をすれば八重山でもなにかできそうな気がする。

取り組みが行えるという考えもあるが、今の時点でも取り組んでいけること、逆に今回の視察先よりも大きなことがあるのではないか。

- ・青壮年部のトレーニングとして、比較的簡単な魚種を試験してみることもいいのでは。
- ・タカセガイについては導入可能ではないだろうか（支庁も導入を考えている）。
- ・魚類養殖場の完成までに、生産面の技術習得のほかに、流通対策、環境保全対策等の勉強会が必要である。
- ・漁船漁業と異なり、沿岸で養殖を行う場合にはどうしても（漁場利用、共同利用施設、共同出荷あるいは出荷調整）協調性が必要になるが、八重山にとってこのことが一番難しい問題である。

#### 2. これからの活動について（助言者から）

- ・漁船漁業などができなくなったらこのような

## 第2回若い漁業者確保八重山地区推進会議概要

日 時：平成8年12月21日 午後2時00分

場 所：八重山漁業協同組合2階会議室

出席者：13名（助言者6名、青年漁業者2名）

助言者 仲田 森浩漁協理事（青年部長）

名嘉 秀三漁協理事

伊良部幸吉漁協管理課長

宮良 恵子漁協管理課長補佐

平良 守弘石垣市水産課

糸数 正普及員

若い漁業者 末吉 正和、金城 茂正

### 会議概要

#### 1. 平成9年度普及事業に係る県予算の説明

##### (1) 技術交流会(青壮年部養殖先進地視察)予算

- ・本部を予定地として来年度予算に2名分が組まれている。今年度参加できなかったメンバーを視察させることができる。

##### (2) 交流学習会(魚類養殖講習会)

- ・水試等の職員に講師となってもらい、講習会を開催する。

#### 2. 青壮年部活動について

##### (1) 先進地視察(11月25～27日)の結果等報告(別紙参照)

##### (2) これからの活動について(出席者の意見)

- ・今回の視察により、養殖を推進するためには販路の確保が重要であることがよく解った。各種の関係業者を招き流通等の勉強会を実施してはどうか。
- ・流通調査等を行い、消費の容量を把握すると

ともに、販路の確保を推進する必要がある。

#### 3. その他

青壮年部の活動として次の事業を行う

##### (1) 大型パヤオの説明及び謂集調査

- ・大型パヤオは設置されたが、まだ利用管理の調整がなされておらず、利用承認には至っていない。青壮年部で調査を行うことで、部内の未経験者の曳縄漁業の研修、当該パヤオの効果の実証等ができる。

##### (2) シャコガイの漁獲指導

- ・3年前に与那国町漁協のシャコガイの埋め込みを指導したが、そろそろ漁獲サイズに達しており収穫の時期となっているため、漁獲方法等の技術指導が必要になっている。与那国町漁協長から八重山漁協長への依頼もあることから、青壮年部で引き受け実施する。

平成 8 年 度 担 当 地 区 別 普 及 活 動 報 告

担当地区：八重山 担当者名：糸 数 正

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問 題 点 及 び 今 後 の 課 題
1. 生産活動に関する課題 (重点課題進捗状況、事業・試験 ・指導関連課題等)						
漁業公害調査	周年 適時	名蔵湾 西表大富		石垣市	今年度は名蔵は濁度が概ね5 で安定しているが、西表は6月 に濁度8であったが11月には激 減している。	西表の濁度の変動の理 由が工事関係者に聞き取 りをして判明せず、今 後留意が必要である。
資源管理型漁業の推進	周年	石垣市		石垣市、漁協	クチナジの資源管理を計画し ており、漁業者間で禁止海域の 設定等について協議が進められ ている。	遊漁者への周知、規制 の徹底をどうするかにつ いて懸念されている。
活性化計画の推進 (漁協再建策の具体化)	周年	石垣市	八重山漁協		八重山漁協の活性化計画の実 現について行政側も強力にバッ クアップしなければならぬ。 これまでの理事会が何ら具体 的な取り組みを行なわなかった と同様、現理事会にも特に新し い動きは見られない。 (1)流通体制の整備 (2)組織活動の強化 (3)漁協経営基盤の強化 (4)資源管理型漁業の推進 (5)生産基盤の整備	様々な問題点を指摘し 協議を促しても、理事会 で取り組む気配がない。 理事会で不足なら専門 部会を設置するなどの方 策もとれるのだが、地域 性なのか、危機感がない のか、話し合いが嫌なの か……一向に伸展がない。

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
流通対策	周年	石垣市 竹富町	モズク生産者		地元がモズクを量産し始めてから県全体としては不作が続き一応処理はできているが、他地域の情不安を困っており、他地域の情報の提供、漁協との調整等にあっている。	生産者が少ないため、漁協としても対応に苦慮しており、今後、集荷、出荷について根本的に検討する必要がある。 (例：一部機械化)
	周年	石垣市	魚類養殖予定者		地元では魚類養殖の着業のため準備を進めているが販路の確保について全く検討されていない。青年部の視察等でも指摘されており対応が迫られている。	養殖導入についての漁協の考えが明確でなく、今後の体制作り、流通調査等をどうするのか理事事会の判断が待たれる。
漁業調整	周年	石垣市 与那国町			ソデイカ漁業の不振等により先島海域での深海たて延縄等の操業が増えており、漁協間のトラブルが懸念されたが現在のところ落ち着いている。 大型パヤオの導入に伴い地元曳縄グループと他の漁業者との調整が難航したが、一応の合意には至った。 ヒレジャコ、魚類養殖の導入にあたり地元の漁業者間の漁業調整が必要である。	他漁協との調整については、地元の資源管理への積極的な取り組み(サメ駆除等)を理解してもらうこと、県全体の資源の管理としての面からの話し合いという方向で指導していく。 地元内部の調整については、それぞれのエゴに對しての理事会の調整機能を期待し指導したい。

課題	実施時期	実施場所	対象	協力者	経過及び成果	問題点及び今後の課題
漁業取締	周年	石垣市	漁業者 遊漁者	海上保安部	養殖ヒメジャコ、放流ヒレジヤコの違法、不当な採捕があり漁業者に対し管理委員会協議、行使規則整理の必要性を指導。シヤコガイ養殖に使用する海の転石の採取が岩礁破碎の手続きが必要ではないかという保安部の指摘があり漁政課と調整。	密漁については地元の事情もあり、理事会等の動きに合わせて取締にありたい。 採石は調整規則の趣旨に基づき、増養殖に使用し海に還元すること等を条件に申請不要と判断。
構造改善事業	周年	石垣市	八重山漁協		漁協が再建整備中であるため当面漁協の設備投資は行わない方針であるが、市営事業である魚類養殖場の棧橋、陸上施設については事業を計画している。市の計画に対しての地元漁協の理解、協力が得られているのか疑問な点が多く、県としては再度内容のチェックが必要。	事業導入経過は知らないが、せっかくの補助事業をどう活かすかは地元の大きな課題であり、再建整備中だから何もやらないではなく、再建策を具体化させるための足掛かりとなるような事業にはできないだろうか。
		竹富町	八重山漁協		竹富町の漁港整備はかなり進んでいるが、いまだに日陰（作業場）もない漁港もあり陸上機能施設の整備が必要だと思われるが、これらの計画策定について離島での漁業者懇談を実施。	地域懇談により町の補助事業への認識のズレを矯正しているが、町と漁協さらに離島漁業者との間に「隔たり」が感じられるので、協議が必要。

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問 題 点 及 び 今 後 の 課 題
沿岸漁場整備開発	周年	石垣市	石垣市		平成6年度より整備を進めている魚類養殖場が平成10年には供用開始となるが、養殖業に対する地元漁業者の意欲はいまひとつという状況にあり、現在養殖希望者を中心に魚類の放流事業、魚病試験を通して啓蒙を行っている(ナミハタは少年教室で放流、アカジンタは小浜島で放流予定、カンパチは試験終了後クドアの発生なしを確認)。	完成後の供用の具体的内容がまだ詰められていないため、早急に漁協、漁業者との調整を行う必要がある。 特に部会の設置を急がなければ収拾が取れない事態が予測される。 また、技術の研鑽、流通対策等についての検討も急ぐ必要がある。
沿岸漁業改善資金業務	周年	石垣市 竹富町	沿岸漁業者		竹富町の漁業者には制度資金への誤解等が多く地域懇談会を実施し指導に当たったが、小浜の漁業者からモズク養殖の着業資金についての相談があった。 昨年度までは、ソデイカ漁へ対応して沖合へ出漁のためのエンジンや衛星航法機器類等の申し込みが多かったが、昨年のソデイカの不漁により今年度は申請が減少し、結局八重山からの3回目の申請はなかった。	石垣市において延滞者があり、漁政課とも相談のうえ、漁協ともども指導、回収に努力しなければならぬ。

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
2. 地域活動（担手＝青壮年婦人 漁業士・生産集団等）に関する 課題						
青年部活動	周年	石垣市	八重山漁協 青壮年部	石垣市 漁協	<p>昨年からソフトボール大会を 実施しているが、今年は10月12 日に雨のためバレーボールに変 更して実施した。予算が大幅に 削減されたため、支庁もタイア ップして景品収集等にあたった。 青年部が推進役となってパヤ オ等を利用した観光漁業の導入 を検討しており、今後他地域の 情報収集に努めたい。</p> <p>養殖にある程度興味を示す者 も出てきており、養殖漁業、資 源管理型漁業及び観光漁業の先 進地視察を11月25～27日の日程 で実施した。</p> <p>本部駐在の平手普及員の各視 察先への連絡、恩納村での乗船 視察の手配等に感謝します。</p>	<p>観光漁業、養殖業につ いてこれまでも青年部と 協議したが、興味を示す 青年漁業者が少なく悪戦 苦闘を続けていた。</p> <p>8月29日に3年ぶりに 開催された青壮年部総会 や先進地視察の反省会の なかで積極的な意見も出 され若干ではあるが進展 がみられたので、速度は 遅くとも前向きに指導し て行きたい。</p>



平成8年度担い手育成事業実施報告

担当者：長嶺 巖、嶋 間 用 一

課 題	実施時期	実施場所	対 象	協 力 者	経 過 及 び 成 果	問題点及び今後の課題
カツオ漁業体験学習	8月16日	伊良部町 佐良浜	佐良浜中学校 生徒全員	伊良部町漁協 佐良浜中学校 伊良部町水産課	当初は7月31日に少年水産教室を計画したが、台風の影響により3回目でやっと実現した。当日の8月13日は天気良好で、男子生徒は、漁場に出てカツオ一本釣りやマグロ釣りを体験した。そして女子生徒は、島内のかつお節加工場で、解体作業等を体験した。 成果として、学校の先生、PTA役員、伊良部町水産課及び漁協小型船主会、加工場長の協力が絶大であった。	事業実施して苦労したところは、実施日時の設定であった。中学校と協議して設定した日にたびかさなる台風の襲来で日時の変更が2度あり、その度に学校並びに船主への連絡と変更日の設定であった。 このように海洋実習は天候に左右されやすく運（ニガイ）が必要である。
シラヒゲウニの資源管理技術交流会	8月15日 ・16日	今帰仁村 古宇利島	平良市漁協 城辺支部	平良市漁協 今帰仁漁協 栽培漁業センター	栽培漁業センターにおいてシラヒゲウニの種苗生産の過程を説明してもらったところ、一同、放流するまでには大変な苦勞をうけていたセンターを視察後、今帰仁漁協において、今帰仁におけるウニ漁業の概要や流通体制の説明をうけた後、古宇利島に渡りウニ部会員との交流をおこなった。 等についての意見交換をおこなった。	今回の技術交流会を終えて感じたのは、資源管理型漁業の推進が求められている現在の沿岸漁業において漁場を管理する重要さを古宇利の漁業者達は十分理解し、自分達で資源を守ってゆこうという意識を感じた。宮古においては一般の住民による沿岸漁業重要資源の乱獲がいわれられているが、漁業者の資源管理に対する意識も低いので、このことから変えないといけない等の意見もあった。

課題	実施時期	実施場所	対象	協力者	経過及び成果	問題点及び今後の課題
タイワングササミの種苗放流	9月26日	与那覇湾 与那覇漁協	平良市 平良市漁協 漁業者	平良市 平良市漁協	<p>目的：栽培漁業の推進と地域への定着を図る目的で資源の減少が著しいタイワングササミの種苗放流を実施した。</p> <p>経過：放流効果のないクルマエビにかわる魚種を検討した結果、与那覇湾等の重要資源となっているタイワングササミの種苗生産、放流事業に取り組むことになった。2年間は種苗生産に失敗、平成8年度月に始めて種苗生産に成功して、同センター内のトン水槽で日間、中間育成したあと、30,000尾を活魚車で運び放流した。</p> <p>効果：(1)従来あったクルマエビの種苗生産施設をタイワングササミの中間育成施設に珪藻、スジアオノリを付着させたモズク網をシェルターに利用して、中間育成した結果、歩留まりも良好であった。</p> <p>(2)平成7年度に2月に与那覇漁協に視察研修を行ったタイワングササミの中間育成放流事業の報告を参考にしながら漁協、漁業者と勉強会を実施し、小さいカニは採らない、抱卵ガササミは採らない、刺し網によるカニ漁業を禁止して、カニ籠による採捕とする等を決めたことは大きな成果である。</p>	(1)栽培漁業を推進する上で漁場管理が大きな課題である。